

菅波茂代表(65)に1年間にわたる被災地での活動を振り返っても
らしい、その評価や今後の課題などについて聞いた。(大江恵里奈)

菅波代表に聞く

「A M D Aは震災翌日に仙台市入り。菅波代表も被災地で約2週間活動した。」

「被災者は発生後3日ほどが最も心細く感じる。何としても翌日には

被災住民交流も重要

スタッフを現地入りさせたかった。私は13日から宮城、岩手で避難所や地域を回って医療活動を行った。近所の寺や神社に避難した人も多く、行政から指定されていない避難所がたくさんできてい



東日本大震災1年の活動を振り返る菅波茂代表

時のように、手術が必要が来たことで被災者も安心した様子だった。ただ、多くの人が家を流されたことから、避難所生活が長引いた。そのためか、被災者間の団結力は強かったように

「お年寄りに対する支援に目が向きがちだが、避難所では子どもたちもストレスを感じている。宮城、岩手県の中学生を元気づけようと岡山に招待したのは、そのためだ。被災者同士で通じ合うものがあり、被災地間の住民交流も重要になる」

「被災地に行く。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」

「津波に襲われ、被災面積が甚大。阪神大震災

「初期段階は発生翌日に現地入りし、素早い対応ができた。医療チーム

「被災地に行こう。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」

「被災地に行こう。旅行で観光しながらお金を使うのも復興のために大事。被災地の様子を目にすれば、何かやらなければという意識が芽生えると思う。自宅近くのスーパーなどで被災地の特産品を買うことも立派な支援。離れていてもできることはたくさんある」